

第14回東海障害者歯科臨床研究会総会および学術大会

プログラム・抄録集

令和4年7月24日（日）

10：00～16：40

プログラム

10 : 00～ 開会あいさつ（榊原大会長）

10 : 05～11 : 40（午前の部）

○日本障害者歯科学会・認定研修会

基調講演：「食べる、口腔ケアの困難性を感覚から考える

—障害者歯科臨床と異なる立場から—

講師：石黒 光先生（元愛知県心身障害者コロニー中央病院歯科部長）

座長：岩瀬陽子先生（朝日大学口腔病態学障害者歯科学講座）

12 : 00～12 : 50 東海障害者歯科臨床研究会・幹事会

13 : 00～13 : 20 東海障害者歯科臨床研究会・総会

13 : 00～16 : 40 (午後部)

○特別講演 : 13 : 30～14 : 30

「チーム医療における多職種連携のコツ」

講師 : 門野 泉先生(愛知県医療療育総合センター 整形外科 医長)

○シンポジウム 14 : 40～16 : 20

「チーム医療の中での各職種の役割」

座長 : 門野 泉先生 榊原裕子 先生

1) 「一般開業医におけるICTを通じた歯科衛生士の関わり」

宮本佳宏先生 (医療法人 一栄会 結デンタル院長)

2) 「2次医療機関での歯科衛生士の役割」

黒田亜美先生 (名古屋北歯科保健医療センター 主任歯科衛生士)

3) 「病院におけるチーム医療での歯科衛生士の役割」

田中恵先生 (愛知県医療療育総合センター中央病院 主任歯科衛生士)

4) 「一般開業医での栄養士の役割」

宮部夏実先生 (医療法人博芳会 認定栄養ケア・ステーション ごはんのおとも 管理栄養士)

質疑応答 16 : 20～16 : 40

16 : 40～ 閉会挨拶 (名和弘幸会長)

「食べる、口腔ケアの困難性を感覚から考える
～障害者歯科臨床と異なる立場から～」

元愛知県心身障害者コロニー歯科部長
石黒光



私は今年で、歯科医師になって50年です。日本障害者歯科学術大会は今期で39回、その前身の研究会が11回開催されているので、合わせて今年で50回目です。前コロニー歯科では研究会の第3回(1987年:故糸山昇先生が大会長)、第26回(2009年)を私が当地の会員の方々のご協力を得て開催しました。さて、今回の話の内容は、この50年間の歯科医療を概観し、そこでの障害者歯科分野の役割、今後の方向性について自説を述べたいと思います。2018年口腔機能低下症と発達不全症が保険導入され、疾患治療、形態修復だけでなく「機能」に注目される様になりました。もともと障害者歯科や高齢者歯科では摂食嚥下リハなどを含め様々な機能障害のある人を対象としてきたので、やっと・・・といった感です。しかし、その口腔機能の内容にはやや違和感があります。人の身体機能を考える時には、その器官が「感覚器—脳—神経—筋肉—臓器」として機能する視点が必要ですが、一般的に口腔機能といった際に、咬合力や咀嚼、舌圧などの出力機構だけが注目されます。8020運動も「自分の歯で食べる楽しみを味わえるよう20歯は残す」ことで、噛んで食べられる出力面が主眼で、入力部の感覚器官としての機能には触れていません。つまり「感覚」と「運動機能」はセットで考えることが必要ですが、歯科で感覚といえば、歯根膜以外、口唇や口腔粘膜、舌、口蓋の触圧覚等からの入力に関しては、痛覚や麻痺以外に注目されることは少ないといえます。味覚についても一部の口腔外科で扱う以外に歯科臨床で扱うことはわずかです。テレビのグルメ番組の食レポを見ると、まず初めに口いっぱい広がる、とろける、食感がいい等が語られ、次いで味覚的に甘酸っぱい、ピリ辛等が続く。つまり初めに、口腔粘膜や舌での感覚的な表現が主です。おいしく食べる機能には、咀嚼だけでなくこうした口腔感覚が重要と思われませんが、摂食嚥下リハビリの臨床でもこの入力感覚に関してあまり重視されていない気がします。

こうした食べる感覚や身体感覚などを含めて障害者歯科医療で対象とする患者には多様な感覚障害を有する患者が多いことを考えると、今後の歯科医療の方向性におけるキーワードとして「感覚」が重要になると考えます。私自身、退職後、他職種と交流する中で現役時代に気づけなかった入力センサーとしての「感覚」を再考し、問題提起したいと思います。

「チーム医療における 多職種連携のコツ」

愛知県医療療育総合センター中央病院
リハビリテーション室長 門野泉



多職種連携は、現代の高度化・複雑化した医療現場において、必須の取り組みであり、「チーム医療」を推進する医療現場は多い。今年度の診療報酬改定ではこの連携について評価する動きも見えてきた。今やこのキーワードを耳にしない日はなく、全国で、そして全世界で運用がなされている。しかし、現実には「チーム医療がうまくいかない」といった話をよく耳にする。

「チーム医療」を良好に機動させるにはどうしたら良いか、どのようなステップを踏んで「チーム医療」を構築するのか。理想は理解できても、実際の方法論についての教育は充実していないのが現状と言える。実は「チーム医療」は質の高い医療を提供する手段でありながら、チームであることそのものが医療のリスクを増加させる要因になることが、医療安全の分野では良く知られている。危機を回避し、医療の質を高める「チーム医療」を行うには、いくつか知るべき概念や、運用のコツがある。

第一に、「チーム医療」の内容、利点や欠点について、正しく理解することが必要である。第二に、行いたいチーム医療のビジョンを分析し、適切なチーム運営を行うことが重要である。目的にあったチームの規模や構成を適切に選択しなければ、誤った方向に方針が流れ、チーム自体も崩壊する可能性がある。第三に、コミュニケーションの問題は最も大きい。基本的な事項ではあるが、この問題を解決しないと「チーム医療」は成り立たない。近年、このコミュニケーションを円滑にする方法として、アメリカで開発されたチームステップス研修やコーチングの技法などが医療現場で応用されている。

「チーム医療」は、「気持ち」や「気合い」だけで達成できるものではない。適切な運用に関わる知識を身につけ、より良い医療が行えるチームを構築することで、治療として最大限の効果を発揮することができると思う。

シンポジウム「チーム医療の中での各職種役割」

「一般開業医における ICT を通じた

歯科衛生士の役割」

医療法人一栄会 結デンタル
歯科医師 宮本佳宏



介護施設において口腔ケアが施設入所者の発熱を低下させる報告が米山らによりなされたことを端緒に口腔ケアが重要であること、また、在宅療養者の誤嚥性肺炎や低栄養の原因の一つは口腔機能の低下であり、これらを予防していくためには口腔機能の維持・向上が重要であるという医科と歯科で共通の考え方が普及してきた。

口腔衛生処置は歯科的口腔管理の基本であり、誤嚥性肺炎等の予防に寄与し、医療・介護の現場で歯科医師・歯科衛生士をチームの一員として、医科と歯科の専門的な視点を合わせるにより、在宅療養患者において特に重要な合併症の予防が期待されている。

令和4年4月の保険改定で歯援診の届出を行った歯科医療機関で当該歯科医療機関の歯科衛生士が単独で訪問して訪問歯科衛生指導を実施した際に歯科医師が情報通信機器などにより患者の口腔状態を観察して、2ヶ月以内に歯科訪問診療料1または2を算定した場合に算定できる通信画像情報活用加算が新設された。これは歯科衛生士が歯科医師に情報共有することを評価されたものである。

在宅医療では訪問診療、訪問歯科診療、訪問服薬指導、訪問看護、訪問リハビリテーション及び訪問介護のチームアプローチが必要であるが、それぞれで動いている多職種が診療現場に立ち会うことは困難であり、診療情報提供書による情報共有では1対1のやりとりとなってしまう。

そこで我々は、尾北医師会の管理しているびーよんネットを用いて、在宅療養を行う患者に対して歯科衛生士が訪問歯科衛生指導を行った際の情報共有を歯科医師のみならず患者家族や他事業所の多職種に対して同時に行っているため、その取り組みについて報告する。

シンポジウム「チーム医療の中での各職種役割」

「2次医療機関での歯科衛生士の役割」

名古屋市歯科医師会名古屋歯科保健医療センター
歯科衛生士 黒田亜美



私が従事する名古屋歯科保健医療センターは、心身に障がいがあり一般開業医では歯科治療時の対応が困難な方を受け入れる名古屋市歯科医師会運営の障害者歯科診療施設である。当センターは障害者の2次歯科医療機関として46年の間、tender loving careに基づき、時代の潮流と個々のニーズの変遷に沿って変化を遂げてきた。

現在は名古屋市の南北2カ所に医療拠点を置き、地域の重症心身障害児者、医療的ケア児を始め、様々な障害者の口腔保健、歯科医療の受け皿となっている。通院困難な障害者においては訪問診療チームが対応し、個々のニーズに応えている。訪問診療においても歯科衛生士は医療チームの中核的役割を担っている。

歯科衛生士専門学校3校の臨地実習施設として教育の場にもなっており、年間約100名の歯科衛生士を障害者歯科実習を通じて地域社会に送り出している。

日帰り全身麻酔下歯科治療や摂食嚥下診療にも歯科衛生士は積極的に携わっており、その業務も多岐にわたるため、より高い専門性が求められている。

医療機関の連携という視点では歯科医師会、歯科衛生士会活動、学会活動、地域障害者歯科ネットワークに参加し、人的交流を深めネットワークづくりに注力している。これにより円滑な患者紹介に寄与している。また、歯科衛生士は依頼に応じて、生活介護施設、就労支援施設、入所施設に出向し、講演や啓蒙活動、口腔ケア指導を実施するなど、地域へのアウトリーチ活動にも力を入れている。

今回、私が従事している名古屋北歯科保健医療センターにおける歯科衛生士の役割について紹介し、センターに従事する歯科衛生士として地域社会との関わりについて、より良い関係を築くための一助になれば幸いである。

シンポジウム「チーム医療の中での各職種役割」

「病院における歯科衛生士の役割」

愛知県医療療育総合センター中央病院歯科部
主任歯科衛生士 田中 恵



当院では「DST (dysphagia support team) 委員会」や「NST (nutrition support team) 委員会」など様々なチーム活動により、外来および入院、入所患者様の摂食嚥下や栄養管理を多職種でサポートする活動を活発に行っています。

歯科衛生士として患者様のお口の状態を確認し、「食べること」が可能なお口であるか、「食べられる環境なのか」を確認させていただきながら介入をしています。

これから食べ始めるお子さんや現状の機能と可能な食形態を確認したい患者様、様々なニーズに柔軟に対応するため、柔軟に連携をはかりつつも日々悩みながら関わっています。

多職種のスタッフと情報共有しながら関わることの大切さ、歯科衛生士だけでは気づけないこと、また歯科衛生士だからこそ気づけること、日々の関わりから学ぶこともたくさんあると実感しています。

また安全に食べ続けていくために「お口をきれいに保つこと」「お口の機能を維持していくこと」そんな目線で関わっていけるよう心がけています。

多職種と関わりながら患者様のお口に向き合うことで、歯科衛生士としての仕事の幅は本当に広いと実感することも多々あります。

検査入院後の施設への情報提供や当院へのレスパイト利用時の継続的な関わり、また歯科衛生士としてはややハードルが高いと感じる「電子@連絡帳」を利用した双方向の情報共有など、「病院と一次医療機関との連携」や「病院とご家庭との連携」、「病院と施設間の連携」も含めて、患者様が長くおいしく食べるためにできることを一緒に考えていけたらと思います。

シンポジウム「チーム医療の中での各職種の役割」

「一般開業医での管理栄養士の役割」

認定栄養ケア・ステーションごはんのおとも
くりさき歯科・こども歯科 管理栄養士 宮部夏実



「認定栄養ケア・ステーションごはんのおとも」は名古屋市内初の認定栄養ケア・ステーションとして医療法人博芳会が2020年4月に認可を受け、くりさき歯科・こども歯科に併設する形で地域の栄養の拠点として開設した。当施設での管理栄養士の取り組みは、来院患者等に対し食生活の聞き取りを行い、その内容に応じた食事指導を行っている。特に小児を対象とした間食指導は定期的な歯科受診時に合わせて継続的な指導をしている。その他に、月に一度、離乳食教室や食育イベント等を開催して、地域の方々への栄養に関する情報提供の場となっている。また、歯科医師、歯科衛生士の他に看護師、言語聴覚士が在籍しているという強みを生かし、多職種で連携し医療的ケア児に対する摂食機能療法や、在宅療養中の患者様に対しては主治医の指示のもと栄養指導に取り組んでいる。その中で管理栄養士は、対象者の栄養状態の確認や食事内容への指導、食形態に合わせた調理方法等の指導を行っている。さらに、当施設にはキッチンが併設されているため、発達年齢等に応じた調理実習の実施が可能であり、食に対する興味関心を高めるような取り組みも併せて行っている。

このように、歯科における管理栄養士の働きは幅広く、各医院に来院する患者層によって取り組み内容は大きく変化する。各医院の特色に合わせて患者様のよりよい口腔育成に繋がるよう活動の可能性は様々であることが考えられる。

講師・シンポジスト略歴

○石黒光 先生

朝日大学障害者歯科 非常勤講師
NPO 重症児デイサービスひろがり 嘱託歯科医
ナゴノ福祉歯科医療専門学校 非常勤講師
名古屋医健スポーツ専門学校歯科衛生科 非常勤講師
名古屋女子大学（管理栄養士） 非常勤講師

○門野泉 先生

2002年4月 名古屋掖済会病院初期研修医
2004年4月 名古屋掖済会病院整形外科医員
2005年10月 岐阜県立多治見病院整形外科医員
2009年4月 愛知県心身障害者コロニー中央病院整形外科医員
2012年10月 名古屋大学医学部附属病院リハビリテーション部病院助教
2018年10月 名古屋大学医学部附属病院リハビリテーション科講師
2019年4月 愛知県医療療育総合センター中央病院リハビリテーション室長

【主な所属学会・専門医等】

日本リハビリテーション医学会（専門医・指導医・代議員）
日本摂食嚥下リハビリテーション学会（認定士・評議員）
日本脳性麻痺・発達医学会（理事）
日本整形外科学会（専門医）
日本小児整形外科学会
日本義肢装具学会（身体障害者福祉法第15条指定医）
日本環境感染学会（インフェクションコントロールドクター）
日本医療の質・安全学会
日本医師会認定産業医

○宮本佳宏 先生

豊橋市民病院 医員 歯科口腔外科(2009年～2011年)

愛知学院大学歯学部 非常勤講師 高齢者・在宅歯科医療学(2011年～現在)

医療法人一栄会 宮本歯科(2014年～現在)

名古屋医健スポーツ専門学校 非常勤講師 歯科衛生科(2019年～現在)

医療法人一栄会 結デンタル(2020年～現在)

愛知県歯科医師会 地域保健部(高齢者・障がい者)(2021年～現在)

【主な所属学会・専門医等】

博士(歯学)

老年歯科医学会 老年歯科専門医

摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士

介護支援専門員

○黒田亜美 先生

1996年 大垣女子短期大学 歯科衛生学科卒業

1996年～1998年 医療法人徳真会グループ 江坂歯科

2000年～2003年 さかい歯科

2004年～2007年 社会福祉法人枚方療育園 歯科診療室(現 枚方総合発達医療センター)

2007年～現在 一般社団法人名古屋市歯科医師会 名古屋歯科保健医療センター

【主な所属学会・専門医等】

日本障害者歯科学会認定歯科衛生士

日本障害者歯科学会指導歯科衛生士

日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

日本自閉症スペクトラム学会認定士 (STANDARD)

○田中恵 先生

1994年 愛知県立歯科衛生専門学校卒業
1994年～1996年 大塩歯科
1996年～2004年 (株)日立製作所 情報機器事業部
総務部勤労課 健康管理センター
2004年～2005年 日立オムロンターミナルソリューションズ(株)
人事総務部勤労課 健康管理センター
2006年～2007年 愛知県心身障害者コロニー 中央病院歯科
2012年～現在 愛知県心身障害者コロニー 中央病院歯科
(2019年3月～愛知県医療療育総合センター中央病院へ名称変更)

【主な所属学会・専門医等】

日本障害者歯科学会認定歯科衛生士
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
日本重症心身症学会

○宮部夏実 先生

2014年 高知県立大学健康栄養学部健康栄養学科 卒業
2014年 愛媛県にて栄養教諭臨時講師として勤務、学校給食センター管理栄養士兼務
学校給食の運営と児童生徒に対する食育の授業や保護者に対する講話等を行
った
2016年 上記を任期満了で退職
2016年 愛知県内の歯科医院にて管理栄養士として勤務
2019年 一身上の都合により退職
2019年 くりさき歯科・こども歯科にて管理栄養士として勤務
2020年 医療法人博芳会認定栄養ケア・ステーションごはんのおともの管理者となる
来院患者に対する食事指導や摂食機能療法、訪問における栄養指導等を実施